

# 研究所活動報告

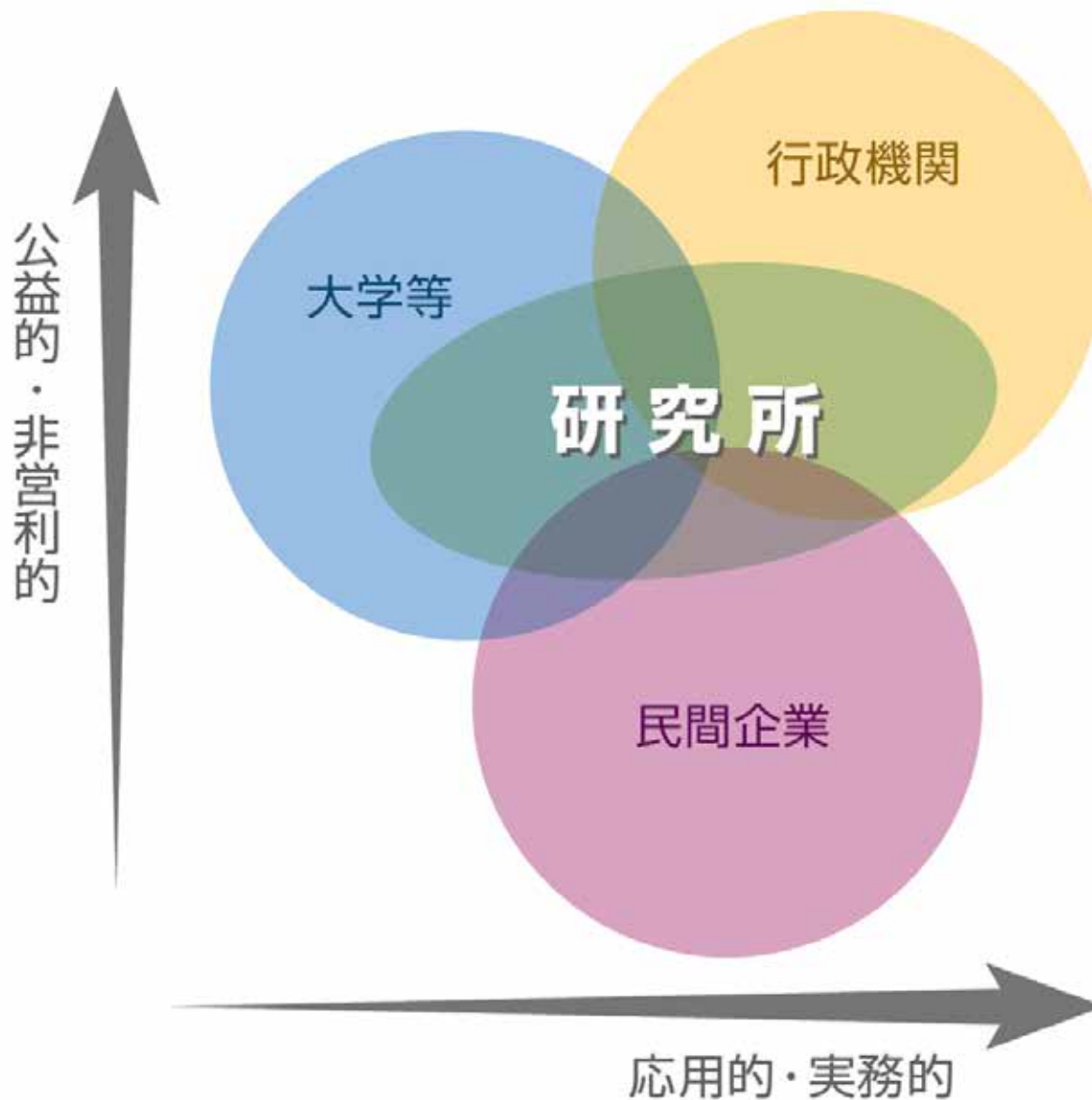
公益財団法人豊田都市交通研究所

報告者：研究部長

# 目次

- 1 研究所の位置づけ
- 2 研究所の役割
- 3 平成30年度からの中期ビジョン
- 4 平成29年度の研究テーマ一覧
- 5 . 平成29年度研究報告活動
- 6 . 平成29年度報告資料発行
- 7 . 平成29年度論文発表、著作、講演等
- 8 . 評価指標およびそれらに基づいた試行評価
- 9 . 市長報告会での政策提案
10. 平成29年度研究の総括

# 1. 研究所の位置づけ: 産・官・学連携



## 2. 研究所の役割

### (1) 広義の都市交通の研究

- 1) 都市内における安全で快適な都市交通のあり方を提案
- 2) 交通まちづくりに関する研究を行う
- 3) 人・自動車・インフラとの関連性を重視し、社会実験を通して望ましい交通環境のあり方を研究

### (2) 交通まちづくりの推進

- 1) 豊田市のめざす交通まちづくりの実践に向けた官民協力体制の支援母体

### (3) 世界への情報発信と貢献

- 1) 都市における交通環境のあり方
- 2) 豊田市での研究成果

## 3 . 平成30年度からの中期ビジョン

### 3.1 研究所の事業(赤い字は変更点)

#### (1) 調査・研究事業:

政策につながる学術的かつ実践的研究の実施

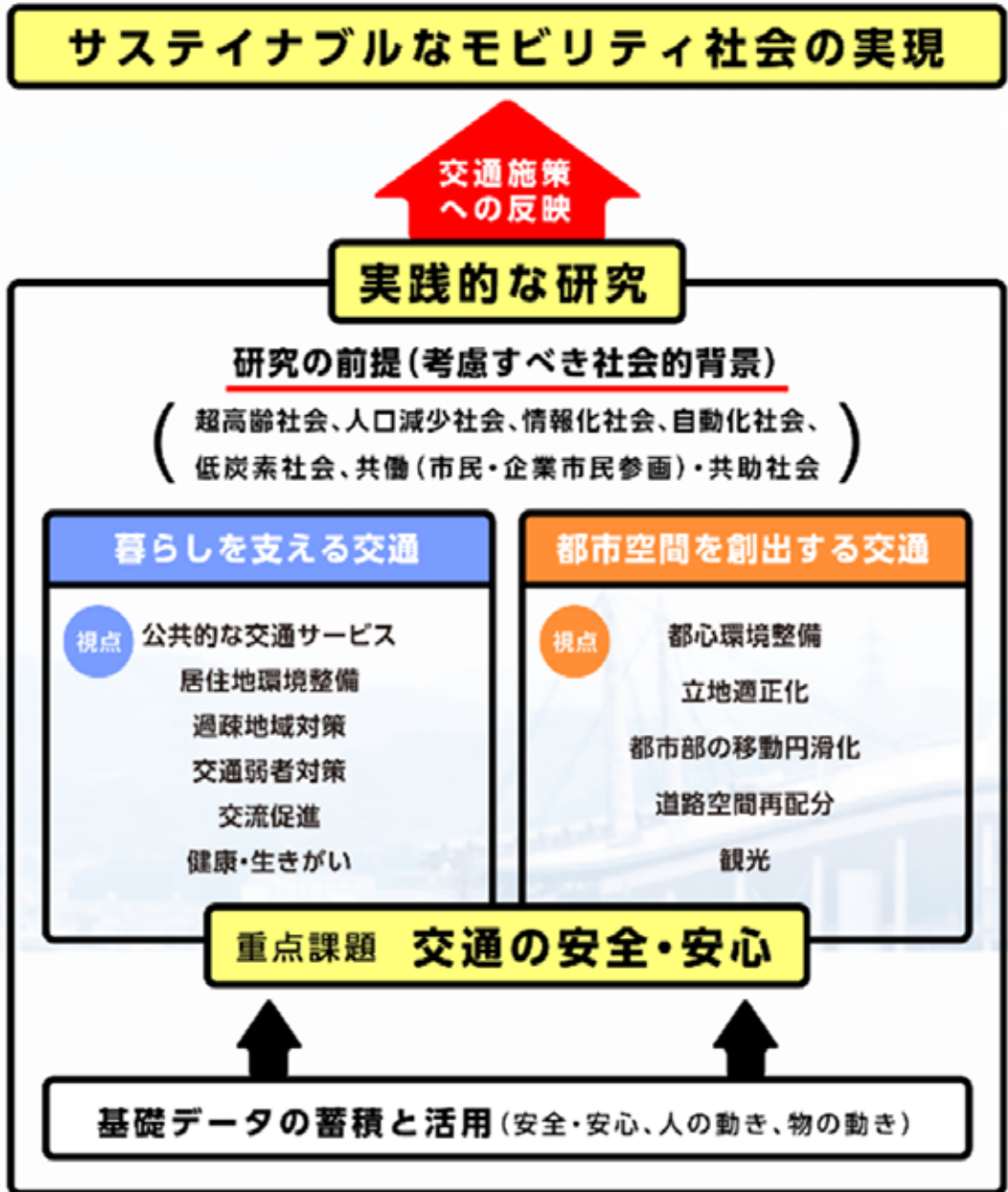
#### (2) 政策提言事業

研究成果に基づく政策の提言

#### (3) 情報発信・交流事業

国内外への研究成果の発信・先進的知見の収集と発信

## 3.2 新中期ビジョンにおける研究の体系図



### 3.3 大胆な政策提案ができる環境づくり

#### U 【市長報告会の設置】

- 豊田市長に直接、政策提言する場を設置
- 研究所の活動評価については、理事会等で理事長らに報告

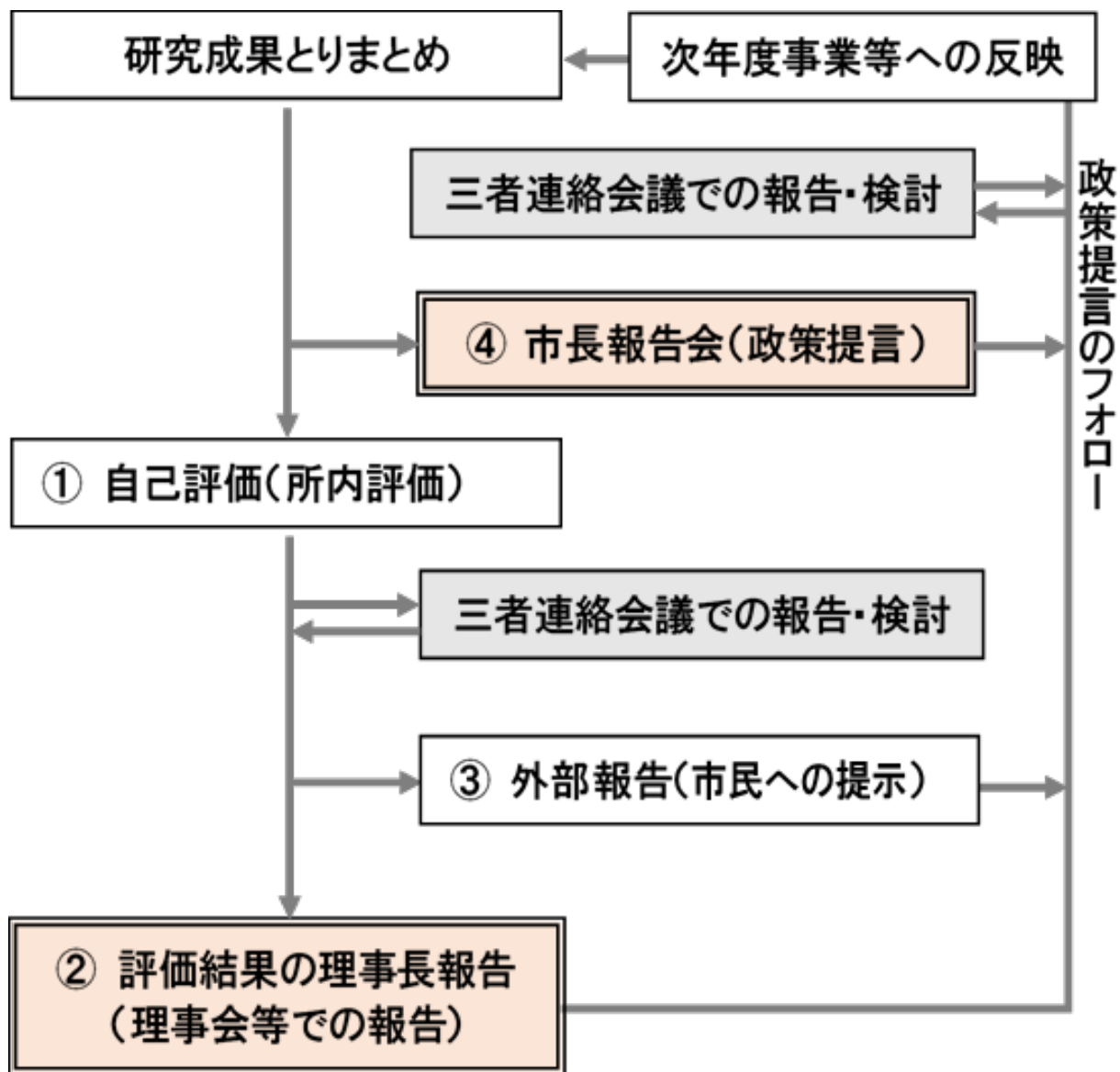
#### U 【産官との情報共有の強化】

- 活動評価、政策提言の結果フォローなどについて、三者連絡会議での連携を強化
- 研究員・行政・民間の「担当者レベル」での情報共有強化

#### U 【研究体制の強化】

- 研究員数：8名→10名
- 強化分野：都市計画 & ITスキル

### 3.4 評価のプロセス





## 4. 平成29年度研究テーマ一覧

分野	自主研究・活動	受託研究・業務
交通安全 (10)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>高齢運転者の増加を考慮した安全・安心なモビリティ実現を目指した研究</u></li> <li>2. 無信号横断歩道での安全に関する基礎研究</li> <li>3. 車両挙動を考慮した生活道路における高齢運転者への助言型ISA効果検証</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊田市交通事故データ調査委託</li> <li>2. 「とよたの交通事故」作成委託</li> <li>3. 豊田市通学路交通安全プログラム対策箇所データ整備業務</li> <li>4. (仮) 歩行者安全対策必要道路線図説明資料作成</li> <li>5. ビッグデータ(BD)を活用した信号サイクル長の検討可能性</li> <li>6. 「交通の最適化に関する研究会」立ち上げに向けた業務</li> <li>7. 交通事故予測を踏まえた愛知県「三位一体」対策の提言</li> </ol>
円滑化 (3)		<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 交通需要マネジメント関連施策業務</li> <li>9. 高橋交通影響調査業務</li> <li>10. 市道長興寺野見線ほか交通量調査業務</li> </ol>
公共交通 (6)	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 豊田市におけるタクシーを活用した外出支援策に関する研究</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 交通圏を意識した事業評価及び幹線ネットワークの活用に向けた事業評価についての調査</li> <li>12. 中津川市公共交通網形成計画策定支援業務委託</li> <li>13. 新たな路面公共交通システム導入検討支援業務</li> <li>14. <u>タクシー等の活用による地域バスの再構築検討業務委託</u></li> <li>15. 北設楽郡公共交通活性化協議会広報誌作成業務委託</li> </ol>
環境・総合 (6)	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 中国の都市における交通まちづくりの現状と将来に向けての動向に関する調査</li> <li>6. <u>自動運転の普及がもたらす都市交通への影響に関する研究</u></li> <li>7. 立地適正化を見据えた豊田市の人口動態に関する基礎的調査研究</li> <li>8. 多様なモビリティの共存による低炭素交通の実現</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 立ち乗り型パーソナルモビリティの規制緩和を目指した実証実験の運営支援・評価委託</li> <li>17. 春日井市高蔵寺ニュータウンにおける自動運転実証実験支援業務</li> </ol>

## 5 . 平成29年度研究報告活動

### (1) 研究成果報告会

- u 日 時:平成29年7月6日(木)
- u 場 所:豊田産業文化センター 小ホール(聴講者:約150名)
- u 内 容:特別講演 葛巻清吾-トヨタ自動車(株)先進技術開発カンパニー常務理事(CPE・車両安全)  
自動運転技術による新たなモビリティ社会の実現-トヨタの目指す新たなクルマと人の関係-
- u 概要報告 安藤良輔
- u 成果報告 西堀泰英・楊甲・福本雅之
- u コメンテーター 松尾幸二郎(豊橋技術科学大学 助教)
- u 嶋田 喜昭(大同大学 教授)
- u 板谷 和也(流通経済大学 教授)

### (2) 豊田まちと交通勉強会(まちべん、11回、参加者:延べ255名)

- u 外部からの情報提供 野田宏治(豊田工業高等専門学校 教授)
- u 三輪富生(名古屋大学未来材料・システム研究所 准教授)
- u 成果発表 当研究所所長、研究員8人

## 6 . 平成29年度報告資料発行

### (1) 機関紙「まちと交通」

59号(平成29年 5月)

60号(平成29年 8月)

61号(平成29年11月)

62号(平成30年 2月)

### (2) 「豊田都市交通研究所年報 平成29年度版(平成28年度実績)」

### (3) 「研究成果報告会・講演会開催記録」

### (4) 各研究の報告書

## 7. 平成29年度論文発表、著作、講演等

	国際論文 (査読付き)	国際論文 (概要査読)	国内論文 (査読付き)	国内論文 (査読なし)	著作・資料 寄稿	講演
(1)交通安全	9編		4編	6編		6回
(2)交通円滑化						
(3)公共交通	2編			3編		6回
(4)環境・総合	3編	2編	2編		3冊	9回
合計	14編	2編	6編	9編	3冊	21回

※国際論文（査読付き）のうち、一編の論文が最優秀論文賞（Best Paper Award）を受賞した。

# 8. 評価指標およびそれらに基づいた試行評価

研究所の役割 (使命)	評価指標	平成28年度	平成29年度
広義の都市 交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数	16	20
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数	24	11
	3) 論文賞等の受賞	0	1
	4) 競争的研究資金の獲得件数〔科研費〕 〔その他〕	1 2	1 3
交通まちづ くりの推進	5) 市(地域)への政策提案件数	7	8
	6) 受託研究の受注件数(件)	12	17
	7) 地域に関わる研究テーマの件数	15	15
	8) 地域活動への貢献〔委員・大学等講師〕 〔講演〕	40 25	41 21
世界への情 報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数	11	16
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催	0	0
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施	0	1
	12) 機関紙・年報の定期発行	5	5
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会 セミナー等の開催回数, イベント出展	14(トラックフェア)	13
	14) 各種行事記録集の発行: 種類	2(25周年記念紙)	1
	15) マスコミの露出度: 報道・出演回数	9	9

## 9. 市長報告会での政策提案

- u 市長報告会：平成30年7月30日(15:00～16:00)に実施
- u 初めての試みであることから、2提案とした
- u 提案1：横断歩道での歩行者保護意識向上を目指した取組み提案
  - 要点 効果的な歩行者保護啓発の検討：横断歩道での歩行者優先(停止)行動を促すために、立哨活動と併せた啓発活動の効果を実証実験により検証する
  - 要点 歩行者に気づかせる仕組みの検討：例 防犯エリアセンサーを活用した注意喚起の応用
- u 提案2：高齢者の交通安全を念頭に置いたADAS普及促進策
  - 【市民】ADASの特徴や安全性の広報
  - 【市民】自動ブレーキ等試乗会の積極的開催
  - 【市民】公的機関(自動車事故対策機構、等)が公表するADAS評価結果を踏まえた購入補助制度の検討
  - 【企業】ディーラー等における機能等の説明の強化依頼
  - 【企業】メーカー側の技術開発の働きかけ(企業向け研究開発費の補助金制度等の検討、など)
- u 市長からのコメント
  - ・提案されたことを横展開する
  - ・報告会に遠慮せず(市・トヨタ・警察・商工会等)関係者に同席させるべき
  - ・庁内外に情報提供および(提言実施の是非についての)関係者に事前ヒアリングを実施すべき

## 10. 平成29年度研究の総括

- u **特徴1:交通安全の件数はほかの分野に比較して 依然として多かった。(安全:10件 全4分野:25件)**
- u **特徴2:追加された受託研究の件数が多かった。(年度当初計画:7件→最終完成:17件)**
- u **研究成果:(同じ8名で)外部発表論文数等(前年度45→34)と講演回数(前年度25→21)は減ったが、全文審査を経た論文数(前年度16→20)がむしろ増えた。質が向上した!**
- u **競争型資金の獲得、外部で評価された論文賞、国際会議での発表回数の増加、地域活動への貢献等から、外部評価は確実に上がっており、研究水準が向上している。**
- u **政策提案は人数当たりの件数を確保されているが、中期ビジョンの特色を明らかにするため、さらなる努力が欠かせない。**
- u **市長報告会で主に2件の研究テーマからの成果に基づいて政策提案を行った**

それでは、**ご意見・ご提案をお願いします**

- u **評価視点・評価指標はこれでよいのか**
- u **定量的指標は、目標値を決めて達成状況を見る「絶対」評価とすべきか？前年また直前数年の変化の傾向をみる「相対」評価とすべきか？**
- u **その他：皆様方からの研究所の活動に関する評価・ご意見・ご要望など**